

「緑字企業報告書 2017」に対する意見



公益社団法人 日本フィランソロピー協会
理事長 高橋 陽子

昨今、企業においてもSDGsという言葉をよく耳にするようになった。2015年にニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳に参加のもと、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17の目標「持続可能な開発目標(SDGs—Sustainable Development Goals)」と169のターゲットが掲げられた。めざす社会は、「誰も置き去りにされない社会」。これは、ますます悪化する世界的レベルでの自然環境の保護、社会環境の整備・人材の育成など、あらゆる国、あらゆるセクターでの包括的で覚悟ある取り組みが求められている。企業も例外ではない。

そうした背景を念頭に今年度の緑字企業報告書を読んできた。

「宝酒造は自然と社会と人間との調和を大切にしています」ということを明言しており、各事業や制度は、その具現化として、一つ一つ丁寧に考え、取り組んでいる内容である。

特集では、会社の原点の「本みりん」について。お米の恵みから生まれる日本の食文化における本みりんの歴史と魅力をわかりやすく解説し、日本の日常における食生活の大切さを伝えるものとなっている。表紙の少女の笑顔に象徴されるように、次世代に伝承すべき豊かな食文化を支える企業としての矜持を実感する。

本業での安全・安心への取り組み、さまざまな改善は、

お客様との双方向の対話による真摯な取り組みであり、社外の高評価を得ているのだと思う。

環境活動では、市民の生活実感に基づいた環境活動評価軸を設定するなど、市民の側に立った環境活動を進めようとする姿勢が窺える。本業における緑字決算、環境負荷軽減の積極的な取り組みに加えて、社会貢献活動においても1979年の「カムバック・サーモン・キャンペーン」に始まり、「タカラ・ハーモニストファンド」、「田んぼの学校」、そして「エコの学校」と、NPO支援、青少年育成へと進化し続けていることに頼もしさを感じる。

そのうえで、全項目を、包括的な経営方針の下に捉え、整理をする工夫を求めたい。

環境方針において生物多様性が重点項目に入った。では、何に取り組むのか、「田んぼの学校」において何を学ぶのかなどを具体的に記述することで、そのめざすところを明確にしてほしい。また、「エコの学校」のプログラムを拡張して、「田んぼの学校」で伝えたいことを疑似体験させるなど、秀逸のプログラムの連携により、地球のいきいきが、社会のいきいき、家庭のいきいき、次世代を担う子どもたちのいきいきへと循環するものになれば、もっと躍動感あふれる伝わり方になるのではないだろうか。尚、「地球の「いきいき」のために」の中に括られている「田んぼの学校」「エコの学校」「タカラ・ハーモニストファンド」の3つの社会貢献

活動と、「社会の「いきいき」のために」に位置づけられている社会貢献活動を分けて位置づけるのではなく、同一線上に置くことで、社会貢献活動全体の方向に新たな地平が見えてくると思う。

「ワーク・ライフ・バランスと女性活躍の推進」における、VOICEの企画は、社員の皆さんの声と素敵な笑顔が、制度や数字に命を吹き込み、社員の「いきいき」が素直に伝わってくる。ただ、個人的な暮らしの声に終始しているので、育児休暇や休職を通して、仕事や暮らしに対する考え方、環境への取り組みなどに、どのような気づきがあったのかなどについての記述があると、地球・社会・顧客・社員の「いきいき」に関連と膨らみが出るのではないだろうか。

「働きやすい職場づくり」において、障がい者雇用、メンタルヘルスの取り組みを読むと、冒頭のSDGsのめざす「誰も置き去りにされない社会」という目標を思い出す。この具現化が企業のCSRである。障がい者・休職者をかけがえのない貴重な人財とするために、課題や今後のめざすべき目標などについて、もう一步踏み込んで示してほしい。報告書は、現在の報告であると共に、今後についての決意表明であってこそ、より信頼と応援を得ることができると思う。

よりよい地球や社会を創るために、これからの企業は、お客様や地域の人たちを巻き込み、共に成長する姿勢を示すことが求められている。宝酒造は、誠実に果敢に長い歴史を創り上げ、すでに社会で信頼されるきらりと光る存在である。宝酒造の今後、伝統と革新を両輪に据え、ステークホルダーと共に新たな価値を創り続けるさらなる挑戦を期待したい。

編集方針

「緑字企業報告書2017」は、宝酒造のCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを、ステークホルダー(利害関係者)の皆様によりわかりやすく誠実に報告することをめざして発行しています。

- 対象組織:宝酒造株式会社単体の活動やデータを中心に報告しています。ただし、一部宝グループ企業の活動やデータを含みます。グループ企業を含むデータ部分については企業名を記載しています。
- 対象期間:2016年4月1日~2017年3月31日
注)上記の期間以外は年度を記載します。
- 発行時期:2017年7月

編集体制

- ・編集委員会(広報部門、環境部門、総務部門、人事部門、事業管理部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、海外事業部門、品質保証部門、お客様相談部門、IR部門)
- ・編集責任者:中尾雅幸(環境課長)

発行責任者:松本博久(環境広報部長)

■ 表紙について

この写真は、当社の主催する環境教育プログラム宝酒造「田んぼの学校」(P.21-22参照)で撮影されたものです。田んぼの学校に参加した子どもたちのいきいきとした表情から私たちは、「皆様にいきいきを届ける企業」であり続けたいという想いを重ね合わせ、表紙を選定しました。

